

イギリス研修報告 06 / 2015年8月1日

B L S 最終日 (現地時間 7/31)

ついにB L Sでの最終日を迎えました。ヒースロー空港に降り立ったころは面持ちが固かった生徒たちも英語しか通用しない環境に慣れてきて、「もう少しここにいたい」と口にするようになっていました。英語を理解し、英語で言いたいことが言えるようになってきたという自覚が芽生えてきた証拠だと思います。

授業の最後にはそれぞれの担当の教員から修了検定書を受け取っていました。その時の皆の表情は様々 —— 5日間の授業を無事終えて安堵する顔や最終日を迎えた寂しそうな顔、最後までやり切ったという自信に満ちた顔 —— でした。

短い期間ではありましたが、親元を離れて遠い異国の地で自分で何とかしなければいけないという経験は、必ず皆の今後の生きる力の土台になると信じています。

ロンドン一日観光 (現地時間 8/1)



今日はイギリス滞在の最終日となりました。B L Sで共に学んだ他国の生徒たちとともに大型バスに乗り、ロンドンに向かいました。

ロンドン市内に到着してからまず向かった先はバッキンガム宮殿です。ロンドン市内の交通渋滞により到着が遅れてしまったため、残念ながら衛兵交代式を見学することはできませんでした。しかし、その荘厳さや雄大さには

言葉を失わせるほどの迫力がありました。

その後、ウェストミンスター寺院、ビッグベン、トラファルガースクエアを經由して、ピカデリーサーカスに到着してから2時間の自由時間をとりました。生徒たちは日本旅行の添乗員さんから教えてもらったアフタヌーンティーが楽しめる場所を探したり、ショッピングをして楽しい時間を過ごしていたようです。

この日の最後には世界最大規模を誇る大英博物館を訪れました。見学時間が1時間20分程度しかなかったため、生徒たちは高橋先生に教えてもらったロゼッタストーン





のところに真っ先に向かっていたようです。

長かったロンドン一日観光を終えて、再びロンドンからベリーセントエドマンズへと戻りました。今夜はホストファミリーと過ごす最後の夜になります。思い残すことがないように、最後の夜を楽しんでほしいと思います。

<研修を終えて>

ロンドンに向けて羽田空港を飛び立った時、生徒たちはこれから始まる約一週間にも渡るホームステイに対する不安を隠せない様子でした。実際、30 時間もの移動時間を経てベリーセントエドマンズに到着し、迎えに来てくれたホストファミリーと会った時には、表情がかなり強張っていたようでした。しかし、到着してから 2 日後には、こちらの生活や語学学校での授業に慣れてきて、折角の機会を活かすために自分たちから他国の生徒に話しかけるようになりました。

今回の研修を経て、海外での語学研修というのは遠泳に似ていると思うようになりました。陸上で行われるマラソンであれば途中で足をとめて休んだり、棄権することもできます。しかし、遠くの岸を目指して泳ぐ遠泳は、最後まで泳ぎ続けなければいけません。イギリスに滞在したのはほんの僅かな期間でありましたが、今回参加した生徒たちは皆最後まで「泳ぎ」切りました。今回の経験が皆の「生きる力」の土台となってほしいと願っています。

(報告者:渡邊大介)